



神を仰ぎ、人に仕う

# Chapel News

2016 年 11 月

No.12

## 「許し」

「もし、私たちが、自分自身を捧げること、人を許すこと、そして、感謝をもって生きる道を学ばなければ、私たちは幸福を追求する必要はありません。幸福は必然的に私達のもとへ訪れます。」(無名の作者)

私たちはいつも聖学院大学の全学礼拝で主の祈りを捧げます。けれど、私たちは主の祈りの言葉一つ一つを思い、心から祈っているでしょうか。そして、その祈りにそって、生活の中で実行しているでしょうか。「わたしたちの負い目を赦してください、わたしたちも自分に負い目のある人を赦しましたように。」(マタイによる福音書 6 章 12 節)と、私たちは祈ります。当然、私たちは自分の罪の赦しを神様に求めます。しかし、人が自分に対して犯した罪の一つ一つを本当に赦しているでしょうか。

何かの理由で人に傷つけられた時、私たちの最初の反応は先ず、単純に、怒りや憤慨を感じる事です。そして、それに引き続き自己防衛から、無意識の内に反撃の行動をとってしまいます。これは、復讐心の他何ものでもありません。傷が深ければ深いほど、感情は高ぶり、強くなるでしょう。そのような時の心の内は、赦しというものから、ほど遠い所にあることでしょう。

しかし、人を赦すことが、明確に神様が私たちに望んでおられることです。

実際、この完全な例は、神御自身で示されました。主の祈りを私たちに教えて下さったイエス・キリストは、それを自ら実践されました。イエス様が十字架にかけられた時、彼を殺そうとしていた人々に対してイエス様のとられた行動は、父なる神へ 彼らの為の祈りでした。「父よ、彼らをお赦しください。自分が何をしているのか知らないのです。」(ルカによる福音書 23 章 34 節)

この極限の赦しの実例をイエス様が示してくださったのですから、私たちも同じように、私たちにに対して罪を犯す人々を赦さなければならないのではないのでしょうか。

勿論、そうすべきです。一時だけの、あるいは中途半端な赦しではいけません。L・グレゴリー・ジョーンズの本『赦しの具体化』で、赦しは“技能”であり、“生きる道”であると指摘しています。言いかえると、他人を赦すことは、丁度祈りのように、自分の習慣となるべきものであるということです。

実際、逆説のように聞こえますが、私たちが他人を赦す時、私たちは自分自身を救っているのです。

“怒り”は、酸のようなもので、それを注がれた物体よりも、それを保管している容器を害し、傷つけ、そこなうものなのです。つまり、怒りや憤慨、人を赦さない心は、自分自身の心や精神を食い尽くす酸のようなものであり、結局、傷つけたその人達よりも、自分自身を傷つけていくものです。

私たちは、自分自身の為に、まさに山上の説教の主の祈りで教えられているように、私たちにに対して罪をおかす人々を赦さなければならないのです。そうすることによって、私たちは幸福への鍵の一つを見出すことになるのです。

(人文学部チャプレン E. D. オズバーン)

## 2016 年度年間聖句

また、はっきり言うておくが、どんな願い事であれ、あなたがたのうち二人が地上で心を一つにして求めるなら、わたしの天の父はそれをかなえてくださる。

マタイによる福音書 18 章 19 節

## 11 月月間聖句

いつも、塩で味付けされた快い言葉で語りなさい。

コロサイの信徒への手紙 4 章 6 節

## 聖学院教会祈禱会

毎週木曜日 18 時 40 分～19 時 40 分、緑聖ホールC室にて行っております。

どなたでも自由にご参加ください。

・11 月 17 日(木) 創世記 1 章 東野尚志牧師

・11 月 24 日(木) 創世記 2 章 菊地 順チャプレン

## チャイルド・スポンサー募金報告(グレイス海外部門)

10 月のチャイルド・スポンサー募金金額は、16,379 円でした。ワールド・ビジョン・ジャパンを通して危機にある子どもたちの支援に使われます。ご協力に感謝いたします。

## 全学礼拝期間について

2016 年度秋学期の全学礼拝は、下記日程で行っています。毎週火曜日から金曜日、14 時 40 分から 15 時 10 分です。どなたでも自由にご参加ください。

秋学期/9 月 27 日(火)～2017 年 1 月 20 日(金)

## 主の祈り

天にましますわれらの父よ  
 ねがわくはみ名をあげさせたまえ  
 み国をきたらせたまえ  
 みこころの天になるごとく  
 地にもなさせたまえ  
 我らの日用の糧を今日も与えたまえ  
 我らに罪をおかすものを我らがゆるすごとく  
 我らの罪をもゆるしたまえ  
 我らをこころみにあわせず 悪より救い出したまえ  
 国とちからと栄えとは 限りなくなんじのものなればなり アーメン



11月15日(火)

奨励者 高橋 愛子  
(政治経済学科教授)

司会者 菊地 順

奏楽者 松本 周

◆ ◆ ◆

前 奏  
讃美歌 361 番 1、2 節  
聖 書 フィリピの信徒への手紙  
4 章 4～7 節(新約 P.366)

祈 祷  
奨 励 「想いを馳せる」

祈 祷  
讃美歌 361 番 3、4 節  
主の祈り  
後 奏

11月16日(水)

奨励者 宮本 悟  
(政治経済学科長補佐)

司会者 柳田 洋夫

奏楽者 清水 貴子

◆ ◆ ◆

前 奏  
讃美歌 370 番 1、2 節  
聖 書 マタイによる福音書  
25 章 26 節(新約 P.50)

祈 祷  
奨 励 「ビジネスは  
聖書の教えに従うもの」

祈 祷  
讃美歌 370 番 3、4 節  
主の祈り  
後 奏

11月22日(火)

奨励者 金子 毅  
(政治経済学科准教授)

司会者 菊地 順

奏楽者 渡辺 善忠

◆ ◆ ◆

前 奏  
讃美歌 298 番 1、2 節  
聖 書 フィレモンへの手紙  
16 節(新約 P.399)

祈 祷  
奨 励 「神が与えたもうた  
可能性を信じて生きる」

祈 祷  
讃美歌 298 番 3 節  
主の祈り  
後 奏

11月23日(水)

奨励者 長村 亮介  
(日本基督教団 世田谷平安教会牧師)

司会者 菊地 順

奏楽者 今村 優子

◆ ◆ ◆

前 奏  
讃美歌 280 番 1、2 節  
聖 書 ローマの信徒への手紙  
5 章 3～5 節(新約 P.279)

祈 祷  
奨 励 「大丈夫という希望」

祈 祷  
讃美歌 280 番 3、4 節  
主の祈り  
後 奏

11月17日(木)

奨励者 石津 靖大  
(こども心理学科特任教授)

司会者 阿部 洋治

奏楽者 相川 徳孝

◆ ◆ ◆

前 奏  
讃美歌 270 番 1、2 節  
聖 書 ヘブライ人への手紙  
11 章 13 節 (新約 P.415)

祈 祷  
奨 励 「借りているものは大切に」

祈 祷  
讃美歌 270 番 3、4 節  
主の祈り  
後 奏

11月18日(金)

奨励者 崔 允培(チェ・ユンベ)  
(韓国・長老会神学大学校教授、  
図書館長、歴史博物館長)

司会者 松本 周

通 訳 洛雲海(ナグネ)

奏楽者 金 サラ(1130)

◆ ◆ ◆

前 奏  
讃美歌 515 番 1、2 節  
聖歌隊による讃美奉献 “Agnus Dei”  
聖 書 ペトロの手紙 一  
1 章 2 節(新約 P.428)

祈 祷  
奨 励 「神の子羊(Agnus Dei)の  
血潮は、いかなる意味を持つか」

祈 祷  
讃美歌 515 番 3、4 節  
主の祈り  
後 奏

11月24日(木)

奨励者 山川 秀人  
(大学附属みどり幼稚園園長)

司会者 阿部 洋治

奏楽者 松本 周

◆ ◆ ◆

前 奏  
讃美歌 290 番 1、2 節  
聖 書 エレミヤ書  
29 章 11～14a 節(旧約 P.1230)

祈 祷  
奨 励 「備えて下さる神」

祈 祷  
讃美歌 290 番 3、4 節  
主の祈り  
後 奏

※秋のキリスト教週間精勤賞授与

11月25日(金)

奨励者 野口 祐子  
(人間福祉学科特任教授)

司会者 柳田 洋夫

奏楽者 ングワー 路津子

◆ ◆ ◆

前 奏  
讃美歌 514 番 1、2 節  
聖 書 コリントの信徒への手紙 二  
12 章 7b～10 節(新約 P.339)

祈 祷  
奨 励 「弱いときにこそ強い」

祈 祷  
讃美歌 514 番 3、4 節  
主の祈り  
後 奏